

I 実践

1 研究テーマ

自他のよさを認め合い、思いやりの心と感謝の心をもって活動する児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校の教育目標は「感謝の心を大切にし、目標に向かって自ら進んで挑戦する、たくましい久慈っ子を育成する」であり、目指す児童像は、「健康で元気いっぱいの子」「友だちと仲良く活動できる子」「自ら考え学び続ける子」である。これらを受け、本校の人権教育の目標を「自他を大切にし、思いやりの心と助け合いの心をもって活動する子どもの育成」「自ら進んで学習し、物事についての正しい判断をし行動できる子どもの育成」「互いに認め合い、助け合って人のために尽くすことができる子どもの育成」としている。本校の児童は、明るく素直で穏やかである。互いの良さを認め合い、高め合おうとする児童がいる一方で、自己中心的な行動で周囲に迷惑をかけたり、軽はずみな言動から友達を傷つけてしまったりする児童もいる。そこで、心に響く交流や体験活動を通して、一人一人の良さに気付き、自他の良さを認め合い、思いやりの心と感謝の心をもって活動する児童の育成を目指し、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

ア 教育活動全体を通じた人権教育の推進

イ ボランティア等の体験学習を重視した指導の充実

2 実践内容

(1) 教育活動全体を通じた人権教育の推進

ア 中学校・高校やPTAと連携したあいさつ運動

本校では、毎朝けやき委員会の児童と教職員が昇降口の近くに立ち、あいさつ運動をしている。また、毎月マナーアップ週間を取り入れ、各学年の児童が順番にあいさつ運動に参加していくことで、あいさつの大切さを感じることができるようになっている。さらに、近隣の中学校・高校の生徒やPTAの方々と連携を取りながらあいさつ運動を展開しているため、たくさんの人々とかわり合って生活し、互いに支え合っていることに気づくとともに、あいさつすることの良さや大切さを実感していると考えられる。

イ サンキュー週間の実施

サンキュー週間とは、毎月3～9日の間は積極的に「ありがとう」の気持ちを伝えようという試みである。学校のマスコットキャラクターである「けやっきー」と計画委員会を中心に、様々な人の気遣いや思いやりの心に気付き、感謝の気持ちを伝えることを全校児童に呼びかけている。帰りの会で一日を振り返り、5回以上「ありがとう」が伝えられた児童は、学年の廊下に掲示してある「けやっきーボード」にシールを貼っている。また、シールの数が学年で100個に達すると「ありがとうの花」が1つ咲き、各学年の取組が分かるように掲示するなどの工夫をしている（写真1）。

ウ 校内人権学習週間の実施

学期ごとに校内人権学習週間を設け、思いやりと感謝の心を基礎とした人権教育の精神の涵養を図った。また、学習したことを全校児童で共通理解を図れるように、人権コーナーを設置した（写真2, 3）。昇降口付近に設置することで、児童間だけでなく、来校した保護者や地域の方にも発信できるように環境の整備を行った。1学期は、視聴覚教材を使った人権学習を実施した。各ブロックごとの人権教育目標に合わせて教材を選び、視聴前と視聴後に話し合いの時間を設け、ワークシートによる振り返りを行った。2学期は、人権メッセージや標語、ポスター、習字などの人権作品への応募を積極的に呼びかけた。特に、人権メッセージは全校児童で取組み、夏休みに家庭に持ち帰って家族と一緒に考えることで、保護者への啓発も図った。また、校内放送で代表作品を読み上げたり、各クラスの廊下に人権メッセージを掲示したりすることで、友達の考えや思いを共有し、人権問題に対する考えを深めることができるようにした。3学期は、けやき委員会を中心に、ナイスハート週間を実施し、学校生活を改めて振り返り、自分の心を磨くとともに、久慈小がよりよくなるためにみんなで育てたい心について考える機会を設けた。

エ 道徳教育の充実

各学年とも目指す児童像に向けて、道徳の時間と他教科・領域との関連を図って授業実践を行ってきた。本年度も「こころのけやき」を各学級に掲示し、学習した教材名と価値、児

童の振り返りカードを蓄積した。また、低・中学年では「ふわふわ言葉やちくちく言葉」、「なかよしポスト」の実施、高学年ではソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、友達への言葉かけや接し方などのロールプレイを実施した。さらに、道徳教育の題材を通して、人権に関する様々な課題について学習し、人権教育への理解を推進した。

(2) ボランティア等の体験学習を重視した指導の充実

ア 異学年の交流

毎週木曜日に「ゆうゆうタイム」として学級遊びの時間を設定している。月一回程度なかよし学級で遊んだり活動したりする日を設け、外遊びや読み聞かせ、縄跳びの練習、清掃活動などを行っている。積極的に異学年の交流を設けることで、互いを思いやることができるとともに、頼りにされたり必要とされたりすることで自己有用感を感じることができた。

イ 地域の方との交流

1・3年生を中心として、地域の高齢者の方々と触れ合う機会を設定している。昔遊びを教わったり、交流センターを訪問して一緒に活動したりして有意義な時間を過ごした。また、昨年度に引き続き「久慈小文化体験交流会」を開催し、地域のボランティアの方々からいろいろなことを教わる体験学習を行った。学校の教育活動以外で自分の興味のある活動に参加し、地域に住む様々な人々と交流することで、改めて地域の良さや温かさを感じることができた。また、保護者も一緒に参加することで、地域の方との絆をより深めることができた。

ウ 命の学習

低学年は一人一鉢栽培、各学級では卒業式に向けてプランターでの花の栽培を行っている。また、各学級で金魚やメダカなども飼育している。植物の栽培や生き物の飼育を通して、命を大切にすることを育てると同時に、他者への感謝の心を育てることに役立つ。また、外部講師を活用して、4年生で生命誕生についての親子学習会を開催したり、1年生の道徳の授業では、保護者に手紙を書いてもらい、生まれたときの様子や成長の喜びを知ること、自分の命や友達の命について考えを深めることができた。

3 成果

様々な活動を通して、児童はお互いを認めたり、助けたり、支え合ったりすることの大切さに気づき、それを実践することの意義を感じることができた。また、たくさんの人々とのかかわりの中で、人と触れ合う楽しさや難しさに気付くとともに、自己肯定感や自己有用感を味わうことができた。

II 今後の課題

人権教育は、学校の教育活動全体で行われていくものであるが、学習したことを日常生活や家庭・地域でも実践できるようにしていくことが大切である。一度だけの活動で終わることなく、繰り返し継続して取り組むことで、互いの信頼関係を深めることになり、思いやりの心や感謝の心が育っていくと考える。学校での活動を、家庭や地域に発信し、連携していくことで人権教育を充実させていきたい。

III 人権コーナーの設置の様子



写真1：ありがとうの花



写真2：人権コーナー



写真3：人権メッセージ